

令和8年4月17日

宇都宮大学発の水稲品種「ゆうだい21」が 栃木県の有望品種に初指定

宇都宮大学が開発した水稲品種「ゆうだい21」が、栃木県の「有望品種」に指定されました。有望品種は、栃木県が県産農産物の競争力強化を目的として、市場性や将来性が高い品種を指定する制度です。「ゆうだい21」は、収益性、県内における作付面積の拡大等が評価されました。本学では、大学発の研究成果である「ゆうだい21」のさらなる普及を通じて、生産者の所得向上、地域ブランドの確立に貢献してまいります。

【ポイント】

- ・宇都宮大学発の水稲品種「ゆうだい21」が有望品種に初指定
- ・コシヒカリと同程度またはそれ以上の収益性が評価
- ・県内での作付面積が211haまで拡大（令和7年産）
- ・県と連携した栽培技術等の指導及び助言、PR活動を推進

1. 「ゆうだい21」の指定について

栃木県がこれまで指定してきた「奨励品種」は、主として、県内全域で広く普及させることを目的として選定されてきた品種です。一方で、「有望品種」は、農業者の所得向上や販売の拡大が見込まれる品種を戦略的に位置付ける制度です。

（参考）有望品種の定義

- ・県内農業者の所得向上につながる品種
- ・県内で一定の普及が見込まれるもの
- ・実需者や消費者から品種特性に対する評価が高く、販売の拡大が見込まれるもの

今回の「ゆうだい21」の有望品種への指定では、以下の点が評価されました。

- ・「コシヒカリ」と同等の単収が見込まれ、高単価で取引されるなど、「コシヒカリ」と同程度又はそれ以上の収入が見込まれること。
- ・過去3年以上の間に100ha以上の作付けがあること。
- ・今後も5年以内に20%以上の作付面積拡大が見込まれること。

2. 宇都宮大学での取組み

宇都宮大学では、「ゆうだい21」の品種登録後も、種子の生産、栽培マニュアルの策定、栽培技術指導等を通して生産者への支援に取り組んでまいりました。また、「ゆうだい21」は、粘り、やわらかさなどに優れた良食味が特徴ですが、2014年以來、食味コンクールで毎年のように最高賞を受賞するなど、全国的に高い評価を得ています。これらの評価を背景に、県内でも作付面積が着実に拡大しており、令和7年産では211haに達しています。

3. 今後の展望

本学では、栃木県と連携して、生産者への栽培技術等の指導及び助言、PR活動を推進するとともに、「ゆうだい21」のさらなる普及を通じて、生産者の所得向上、地域ブランドの確立に貢献してまいります。

【お問い合わせ先】

国立大学法人 宇都宮大学 ゆうだい21担当（櫻谷）
TEL：028-649-8163
FAX：028-649-5497
E-mail:udai21_mkt@a.utsunomiya-u.ac.jp

【参考情報】

- ゆうだい21HPページ（宇都宮大学）
<https://udai21.utsunomiya-u.ac.jp/>



- 水稲品種「ゆうだい21」の有望品種への指定
（栃木県HP報道発表掲載ページ）
<https://www.pref.tochigi.lg.jp/g05/houdou/2603yuubouhinshu.html>

